２０２１年度　大学入学共通テスト【第２日程(1 月 30 日・31 日)】

倫理，政治・経済[分析]

第１日程同様、単独科目と共通の設問。写真や図・資料を活用した問題が目立つ。

すべての設問が単独科目「倫理」と「政治・経済」と共通で、配点・分量も均等。

難易度（【第１日程(1 月 16 日・17 日)】との比較）

やや易

倫理分野の設問の多くは、第１日程と類似の形式・内容のものであり、同程度の難易度。政治・経済分野は、第１日程に多く見られた複雑な設問や時事的な事柄が減ったことから、難易度はやや易化。なお、昨年度のセンター試験と比較した場合、出題の形式が異なるものも少なからず見受けられたが、必要となる知識・技能や思考力・判断力には大きな違いはなく、同程度の難易度。

出題分量（【第１日程(1 月 16 日・17 日)】との比較）

全体の大問数は７で第１日程と変わらず。倫理分野の大問数４、政治・経済分野の大問数３も第１日程と同じ。全体のマーク数は第１日程の 33 から 32 へと減少したが、全体の設問数は同数の 32 であった。全体のページは 41 ページと、第１日程の 40 ページよりも１ページ増となった。

出題傾向分析（【第１日程(1 月 16 日・17 日)】との比較）

倫理分野では、第１日程には見られなかったグラフの内容を読み取るタイプの設問が１問出題された。ただし、倫理分野の設問では、複数の文章資料や会話文の内容を読み取って解答する必要のある、思考力や判断力を試す問題と、センター試験と同形式の設問の両方が出題されている。政治・経済分野では、第１日程で出題されていた設問の形式と比べ、その複雑さが緩和された。具体的には、第１日程で出題された最高裁判所の判決文や憲法の専門書からの引用文を用いた設問や、ある考えを導くための根拠・理由を選ぶ設問など複雑なつくりとなっている設問が減り、全体的にそれほど時間をかけずに解答できる設問が増えている。また、第１日程では時事的な知識事項を問う設問が複数見られたが、第２日程では時事的な知識事項はあまり出題されなかった。

2021 年度【第２日程(1 月 30 日・31 日)】フレーム

大問	分野	配点	マーク数
第１問	源流思想	12	4
第２問	日本思想	12	4
第３問	西洋近現代思想	12	4
第４問	青年期と心理、現代の諸課題	14	4
第５問	法と政治機構	19	6
第６問	現代の経済状況	19	6
第７問	地域課題に対する国などの役割	12	4
合計		100	32

2021 年度【第１日程(1 月 16 日・17 日)】フレーム

大問	分野	配点	マーク数
第１問	源流思想	12	4
第２問	日本の思想	12	4
第３問	西洋の近現代思想	12	4
第４問	現代社会の諸課題と青年期	14	4
第５問	民主主義の原理と日本国憲法	19	6
第６問	現代の経済	19	6
第７問	日本の国際貢献	12	5
合計		100	33

設問別分析

第１問

ギリシア哲学、キリスト教、イスラーム、仏教、古代中国思想など、東西の源流思想からバランスよく出題された。難易度は第１日程と同様で、取り組みやすい良問が多かった。問３で「スチュワードシップ」というなじみのない言葉が正解のヒントとして使用されたが、この言葉を知らなくても空欄前後の文脈から正誤を判断できる。問４は二つの資料文を踏まえて判断させるという、第１日程でも見られた形式の問題であった。

第２問

古代日本における神々への信仰、江戸期の思想、近代の思想など、日本思想の分野から幅広く出題された。問３では、栄西の『喫茶養生記』に関する知識と、空海の綜芸種智院に関する知識が問われた。問４は、和辻哲郎の資料文を踏まえてレポート文中の空欄を埋めるという形式であるが、読解力で対応できる設問であった。

第３問

宗教改革からルター、カルヴァンの思想、カントの思想など、近現代西洋思想から幅広く出題された。問３は、資料と会話文を組み合わせるという試行調査や第１日程でも見られた形式の問題であるが、読解力があれば正解できる問題であった。問４は、会話文の内容に合致するものを選ぶというセンター試験で見られた形式の問題であるが、読み取り自体は難しくない。

第４問

青年期と現代社会の諸問題から出題された。問３のテイラーの読み取り問題は、単純な読解ではなく、「共同体主義（コミュニタリアニズム）」についての知識が必要とされるものであった。リベラリズムやリバタリアニズムとの違いが理解できているかどうかが試された。問４は複数の会話文を踏まえて、空欄に適切な記述を入れる形式であり、センター試験では見られなかったが、第１日程でも類似した形式の出題があった。

第５問

市長選挙に関する会話文に沿って、日本における政治や選挙、日本の行政をめぐる法制度、日本の法制度上実施できる政策、国民健康保険制度の加入者の負担を軽減する政策、日本の民間企業の労働者に関する法制度について出題された。ほとんどの問題がセンター試験で見られた知識の有無を問う問題であり、標準レベルの問題であった。問５は、特定の政策を実現する方法を選ばせるという形式で、論理的判断力が求められる問題であった。

第６問

会話文をもとに、需要曲線と供給曲線（計算含む）、比較生産費説、経済思想になどについて出題された。問３は従来の比較生産費説とは異なる出題形式だが、選択肢にしたがって計算すれば解答は可能である。問６は、新聞の見出しという形式が目新しいが、問われているのは基本的な経済学者とその経済思想である。

第７問

「地域課題に対する国・地方公共団体・住民の果たす役割」をテーマとして、農業の活性化に関する取組み、商品の需要量に価格の変化が及ぼす影響、日本の地方自治制度、地方自治の意義について出題された。問３は、２つの商品の需要曲線を用いた問題だが、図を正確に読み取れば正解にいたることができる。

過去平均点の推移

21 年度※ 【第 1 日程】 （1 月 16 日・17 日）	20 年度	19 年度	18 年度	17 年度
69.3	66.5	64.2	73.1	66.6

※2021 年度の平均点は 1/22 大学入試センター発表の中間集計その２の平均点です。